

■日時 平成29年8月17日(木) ■天候 曇り

キラリ高校・通 対 愛媛県立松山東高校・通

■球場 府中市民球場 第1試合 1回戦

■試合時間 2時間25分 ■備考 8回コールド

■審判 球審: 安田 暢興 塁審: 大和 重徳 森井 正昭 河村 浩志

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
松山東・通	四国・愛媛	0	0	0	0	3	1	1	0		5	9	6
キラリ・通	山静・静岡	1	0	3	2	0	0	4	2x		12	15	3

松山東・通

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	捕	越智 颯	5	0	1	1	三ゴ		三ゴ		三振	遊安		遊併	
2	遊	森田 竜矢	3	0	1	0	三振		左安		投犠	三振			
3	投	大野 天良	3	1	1	0	中安		三振		四球		三振		
4	中	上田 正人	3	2	1	0	遊ゴ		遊失		四球		遊安		
5	一	越智 弘希	4	0	1	2		三振	三ゴ		左2		三振		
6	二	川田 甲二郎	4	0	2	1		右安			二ゴ	三振		左安	
7	三	門田 良明	4	0	1	0		左2		三振		三振	中飛		
8	右	金光 龍汰	2	0	0	0		三振		投ゴ					
8	右	宇高 大那	2	0	0	0						投ゴ		三振	
9	左	池田 大志	2	2	1	0		投ゴ			中安	死球		四球	
合計			32	5	9	4	残塁:8 併殺:1								

備考

■バッテリー

投手	捕手
大野 天良	越智 颯

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
大野 天良	7 2/3	46	15	12	4	8

キラリ・通

	ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1	二	原野 拓巳	6	1	1	1	遊失		一ゴ	捕ゴ	遊ゴ		三振	二安	
2	遊	絹村 希望	5	3	3	2	三振		三安	左2		遊ゴ	中本		
3	三	絹村 拓海	4	2	3	2	右3		右安	右失		死球	右安		
4	捕	油井 奎弥	5	1	1	0	左飛		左安	三振		三振	投飛		
5	投	服部 純尚	4	0	1	0	死球		一失	中失		遊ゴ		中安	
6	一	松本 侑禪	4	2	1	0	三振		二安	三振			四球	遊ゴ	
7	左	山本 海斗	4	1	1	0		三振	四球		一ゴ		一飛	中安	
8	右	岸端 秀晴	5	1	1	1		三振	三振		三振		右2	三振	
9	中	原田 温和	5	1	3	1		一飛	三振		三安		中3	左安	
合計			42	12	15	7	残塁:11 併殺:0								

備考

■バッテリー

投手	捕手
服部 純尚	油井 奎弥

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
服部 純尚	8	37	9	12	4	2

■戦評

大会初日が雨天順延となり本日の開催も危ぶまれたが、開始時間を30分遅らせて試合開始の運びとなった。府中球場1回戦第1試合、2年連続2回目出場、山静地区代表静岡県キラリ高校・通信制と14年振り8回目出場四国地区代表愛媛県・県立松山東高校の試合は、1回裏のキラリ一番原野が相手失策で出塁後二盗し、3番大野の右翼線三塁打により先制すると、更に3回裏に、2番絹村(希)の三塁への内野安打から4安打1四球1失策と続き、3点を追加した。なおも4回の裏、相手の守備の乱れにより2点を追加し、計6点として試合の主導権を握った。中盤まで大きく点差をつけられた一方の松山東は、5回表、9番池田が中前安打で出塁し、捕手の悪送球により三塁に進塁。その後、3番・4番が連続四球で出塁し、さらに相手投手の暴投、そして5番越智の左翼線2塁打などで3点を返し、一方的になりかけた流れを変えた。更に7回表に入り、1死後、4番上田が遊内野安打で出塁、盗塁後6番川田の左前安打で得点して試合の流れが全く分からなくなるのではないかと考えたが、その裏、1点差に追いつかれたキラリは、6番松本が四球を選び出塁、1死後、8番岸端の右翼線二塁打、9番原田の中堅手越え三塁打、更に2番絹村(希)の本塁打と長打を重ね4点を追加し5点差と突き放した。8回に入り5番からの攻撃で4安打を集中しさらに2点を追加して7点差をつけ、大会規定によりキラリのコールド勝ちになった。キラリ主戦服部、松山東主戦大野の両投手ともに安定した立ち上がりを見せたが、守備の乱れから相手に得点を許す展開になるという場面が目立った試合であった。府中球場の1回戦第3試合は、2年ぶり5回目出場、沖縄県代表の県立那覇工業高校と2年連続2回目出場、茨城県代表の県立釜崎高校の対戦となった。1回の表、那覇工業の投手中村は先頭打者に二塁打されたがその後は制球良く球を低めに集め釜崎の打者から散発の3安打13三振に抑え込み釜崎を完全に抑え込んだ。一方、釜崎の投手関口も初回に2失策と走者をためた場面で4番中村の中堅手越え三塁打を打たれ、那覇工業に2点の先制を許したが、その後は4回まで走者を出すものの要所を締め那覇工業打線に追加点を挙げる隙を見せなかったが、5回、9番上原が四球で出ると1番から3番まで連続安打で4点の追加点を許し、更に6回にも那覇工業は7番宇治原が中堅手越え三塁打、8番小濱の三塁打、さらに内野の失策も絡み2点を加点され、8点差をつけられた。7回の裏、釜崎の攻撃次第ではコールドが成立するというところで釜崎4番平田が四球で出塁すると、那覇工業内野の失策で三塁に進塁、7番中村の右前安打で得点し、なおも二死二・三塁と反撃したが最後の打者が三振に倒れコールド回避に一步届かなかった。試合は大会規定により那覇工業の7回コールド勝ちとなった。